

米国 4～6月期の純輸出はプラス寄与に転じる公算 (06年5月貿易統計)

発表日：06年7月12日(水)

～ドルの上昇余地は限定的～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

 (03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

貿易収支 (U.S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入		財 Goods	
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports		Imports			
05/05	▲566.29	▲620.73	+54.44	+0.0	(+9.5)	▲0.3	▲0.2	(+11.9)	▲0.3
05/06	▲584.19	▲638.92	+54.73	+0.6	(+12.5)	+0.5	+1.5	(+10.2)	+1.6
05/07	▲580.80	▲635.97	+55.17	+0.6	(+11.4)	+0.6	+0.2	(+11.9)	+0.1
05/08	▲587.42	▲643.61	+56.19	+1.4	(+12.3)	+1.8	+1.3	(+11.1)	+1.5
05/09	▲649.68	▲707.88	+58.20	▲1.5	(+8.6)	▲3.1	+2.7	(+14.8)	+2.9
05/10	▲665.98	▲725.73	+59.75	+2.1	(+9.2)	+2.8	+2.3	(+13.9)	+2.7
05/11	▲640.02	▲697.14	+57.12	+1.3	(+11.1)	+2.0	▲0.7	(+10.5)	▲0.9
05/12	▲641.74	▲702.19	+60.45	+2.3	(+10.9)	+2.5	+1.6	(+13.4)	+1.6
06/01	▲662.17	▲722.25	+60.08	+2.0	(+12.7)	+2.5	+2.4	(+14.2)	+2.7
06/02	▲626.61	▲680.29	+53.68	▲0.8	(+11.9)	▲0.8	▲2.5	(+10.8)	▲3.2
06/03	▲618.62	▲677.15	+58.53	+1.8	(+12.7)	+2.0	+0.7	(+13.3)	+0.9
06/04	▲633.41	▲695.68	+62.27	▲0.0	(+10.1)	▲0.6	+0.8	(+10.4)	+0.9
06/05	▲638.34	▲700.83	+62.49	+2.4	(+12.6)	+2.9	+1.8	(+12.7)	+1.9

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
	産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		産業資材	資本財	自動車	消費財	
05/12	+2.7	+3.2	+1.5	+3.3	+4.5	+1.6	+0.5	+2.0	+1.9	+3.6
06/01	+2.1	+4.6	+1.8	▲1.1	▲0.6	+2.6	+1.9	+3.5	+5.6	▲0.1
06/02	▲0.7	▲2.0	+0.6	+1.2	▲1.0	▲3.1	▲1.3	▲4.7	▲4.7	▲2.3
06/03	+2.0	+7.4	+0.0	▲4.2	+2.1	+0.8	▲6.3	+5.8	▲1.2	+6.4
06/04	▲0.6	+0.3	▲0.5	+1.0	▲4.0	+0.9	+5.2	+0.3	+2.0	▲3.3
06/05	+3.0	+3.4	+2.4	▲1.4	+5.2	+1.9	+7.0	+0.5	▲2.4	▲0.1

(注) 季調済前月比伸び率。

*1: Industrial supplies and materials

*2: Capital goods, except automotives

*3: Automotives vehicles, parts and engines

*4: Consumer goods, except automotives

	輸出						輸入					
	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本		カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本	
05/11	+13.3	+10.4	+13.5	+12.1	+12.6	+8.9	+11.5	+15.3	+14.4	+10.5	+7.5	+2.7
05/12	+11.8	+10.9	+14.7	+7.3	+10.2	+12.0	+13.9	+25.8	+17.3	+3.7	+10.7	+4.5
06/01	+13.4	+10.9	+18.9	+7.8	+15.9	+10.9	+17.9	+20.0	+23.6	+13.5	+12.6	+7.0
06/02	+13.3	+9.5	+15.0	+7.9	+11.5	+9.5	+11.3	+15.6	+17.7	+3.5	+6.1	+5.9
06/03	+14.9	+11.9	+21.2	+12.6	+15.7	+8.4	+13.7	+10.5	+19.4	+11.3	+13.9	+1.5
06/04	+8.7	+5.4	+10.5	+6.5	+10.4	▲2.6	+8.7	+7.7	+7.5	+4.7	+10.8	+3.8
06/05	+15.7	+12.1	+15.8	+14.5	+17.7	+15.9	+16.0	+12.1	+17.9	+9.3	+13.6	+11.1

(注1) 未季調前年比伸び率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

638.34億ドルの赤字に拡大

06年5月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、638.34億ドルの赤字(前月比+0.8%)となり2ヵ月連続で増加した。市場コンセンサスの▲649億ドルを下回ったものの、高水準の貿易赤字が持続している。サービス収支の黒字額が拡大したが、それを上回るペースで財収支の赤字額が拡大した。

輸出は、民間航空機の拡大により前月比+2.4%と増加に転じた。一方、輸入は自動車、消費財が減少したが、エネルギー関連の増加によって産業資材、投資の好調

を背景に資本財が拡大したため同+1.8%と3ヵ月連続のプラスとなった。特に、原油輸入価格は輸入量が3億2382.7万バレル増加したうえ、輸入価格が1バレル=61.74ドルと上昇したため前月比+16.5%と急増した。

4、5月の実質財サービス貿易収支は、1～3月期から小幅縮小していること、6月には貿易赤字の拡大が予想されることから、4～6月期の純輸出はGDPを0.35%程度押し上げると見込まれる。

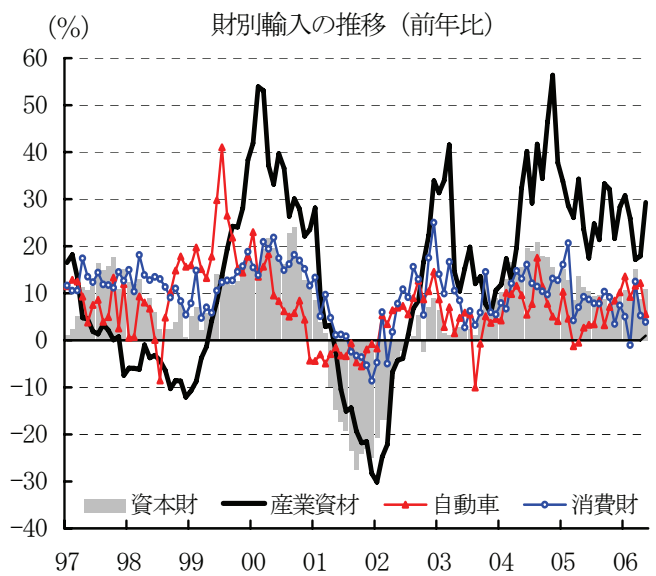
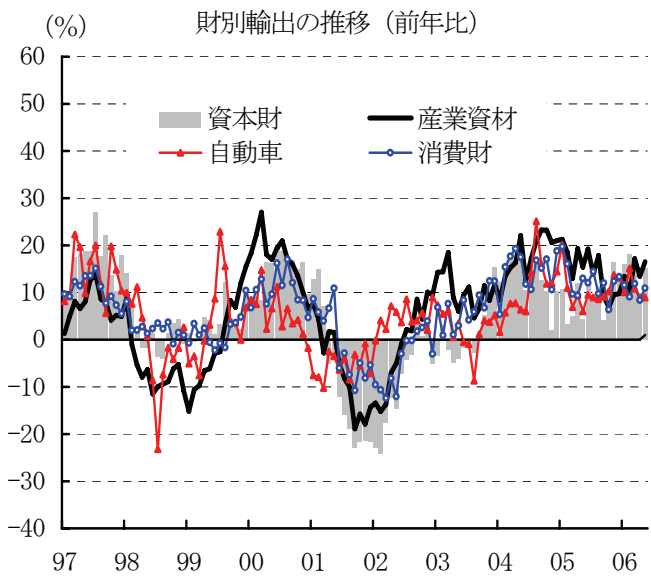
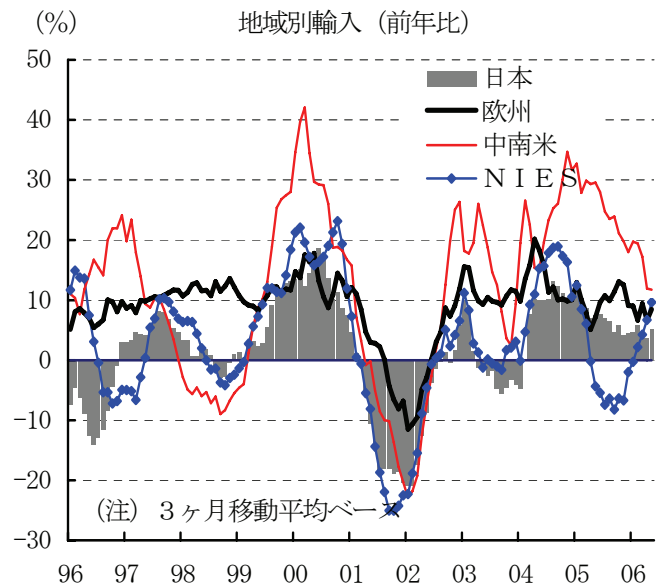
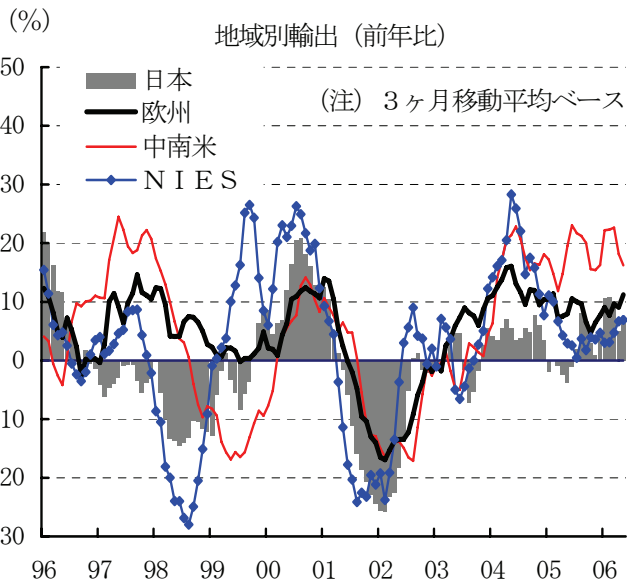
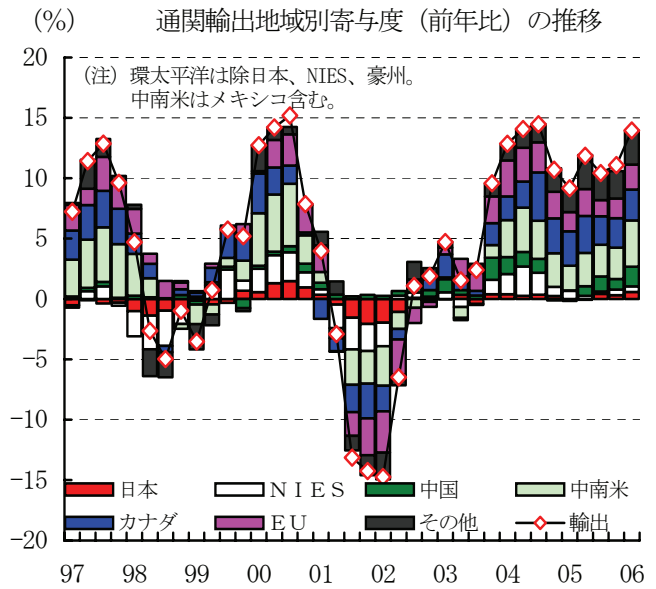
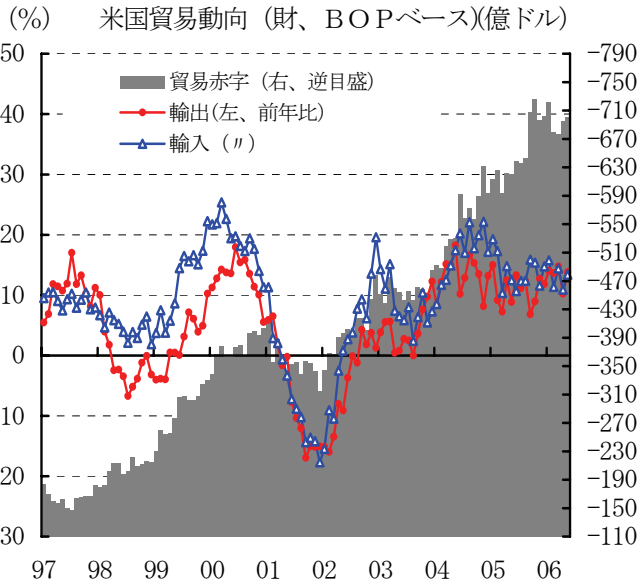
対OPEC赤字額が過去最大

地域別収支では、対中国が▲177億ドル（前年比+12.0%）と前月から赤字額が拡大し、30ヵ月連続で地域別で最大の赤字国となった（貿易赤字全体の25.3%に縮小）。対NAFTAが▲114億ドル（同+17.2%）、対欧州は▲108億ドル（同+1.3%）、対NIESは▲17億ドル（同+58.3%）と赤字額が増加した。対OPECは▲102億ドル（同+39.7%）と過去最大を更新した。一方、対日は▲71億ドル（同+8.0%）と前月から縮小した。

ドルの上値の重い展開が予想される

ドル円相場については、足元で北朝鮮によるミサイル発射、米国での利上げ継続観測からドルがやや強含んでいる。現在、8月のFOMCでの利上げはある程度織り込まれているとみられ、米国の金融政策は一段のドル強含みの材料にはなり難いであろう。仮に、8月以降も利上げ継続との見方が強まっても、政策金利が既に引き締め過ぎの水準まで上昇している中での追加利上げとなる。このため、米国景気の失速懸念、利下げ期待が強まると予想されることからドルの上値は限定的なものにとどまると考えられる。

米国で年内利上げ休止の可能性が高い一方、日本では利上げがこれから始まる段階であることから、先行きの金利差縮小観測が強まり易いとみられる。加えて、米貿易赤字額は原油価格の高止まりや輸入の所得弾性値の高さから高水準で推移すると予想され、11月7日に中間選挙に向けてドル売り材料にされ易いであろう。また、中間選挙に絡み元切り上げ圧力が一段と強まると見込まれること等から、ドル弱含みの展開が予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。